新春特別企画（前編）

山崎エリナが捉える「土木の真髄」

土木業界で人気急上昇、異彩を放つカメラマン

OID=20071147194 無断複製・無断転載禁止 日経BP社

高速道路の舗装版撤去の現場にて。アスファルト舗装が宙を舞う(写真:特記以外は山崎 エリナ)

土木業界で、あるカメラマンが注目を集めている。福島市の寿建設からの撮影依頼・写真展示を皮切りに、先月開催の「社会インフラテック」をはじめとした写真展などで引っ張りだこの、山崎エリナ氏だ。世界各国を旅しながら、風景や人など様々な対象を撮影してきた経験を生かして、土木の写真で新境地を開く(本誌)。

山崎 エリナ(やまさき・えりな)

神戸市出身。1995年に阪神大震災を経験後、同年9月に渡仏。以来、世界40カ国以上を旅して、撮影やエッセイ執筆を手掛けてきた。国内外で写真展を開催し、アカデミー賞受賞の映画監督アンジェイ・ワイダ氏や音楽家の坂本龍一氏など、著名人のファンも多い。代表作は「ただいま おかえり」(小学館)、「アンブラッセ〜恋人たちのパリ〜」(ポプラ社)など。今年3月末にグッドブックスからインフラメンテナンスの写真集の出版予定

OID=20071147194 無断複製・無断転載禁止 日経BP社

農業用水を流すトンネル
の補修現場

OID=20071147194 無断複製・無断転載禁止 日経BP社

上／橋梁の桁下の耐震用装置で、アンカーボルトを挿入する穴を清掃中
下／除草作業の様子。草刈り機による小石などの飛散をネットで防止している

OID=20071147194 無断複製・無断転載禁止 日経BP社

上／トンネル工事で掘削開始前に、ドリルジャンボをはらい清める神主
下／道路トンネルの補修。舗装を撤去して、インバートを更新するために配管を切り回している

OID=20071147194 無断複製・無断転載禁止 日経BP社

橋梁補修現場。バックホーによる埋め戻し作業

インタビュー　連係プレーに感銘

――色々な国を旅して、数多くの被写体と向き合ってきた山崎さんですが、建設現場の撮影は初めてだと聞きました。

1995年に阪神大震災を経験した後、倒れた高速道路が元に戻り、崩壊したビルが復興してきれいになる様子を見て、感謝すると同時に「人の力はすごい」と感じました。その頃から現場への関心はあったのですが、なかなか撮影する機会には恵まれませんでした。

そして2011年に東日本大震災が起こります。自身も被災して、何かできることはないかと模索しつつも、復興をはじめとする建設関係に踏み込むきっかけがありませんでした。

そんなときに縁あって、寿建設の森崎英五朗社長から、「現場を撮ってみないか」という話があったのです。私が見たかった、知りたかった部分をまじまじと撮らせてもらいました。除雪や草刈りなど、誰かがやらなくてはならない作業、現場というのがある。我々の日々の生活を保障してくれる仕事は、とても大変だと改めて感じました。

――寿建設で10近い現場を撮影したと聞きました。特に印象に残る現場は？

まず思い浮かぶのは、水路トンネルの現場でしょうか。本当に狭くて暗くて（10ページ）。私は閉所恐怖症だったので、たて坑を降りてすぐは、しゃがみこんでしまいました。

けど、いざ作業が始まると、怖さは吹き飛んで撮影に没頭してしまいました。とにかく恰好いい。作業員同士がどんどん連係して、作業内容が変わっていく。土木の知識がないので、作業の終着点が分からず、ひたすらシャッターを切りながら追いかけていました。

トンネルもそうですが、自分たちが普段使う身近な道路の現場も印象に残っています。人が通る時に迷惑をかけないように、サポート役と案内役などが、きちんと連係して作業している。それも誇りを持ってやっているという連係プレーに感銘を受けました。

写真家
山崎 エリナ氏
（写真:本誌）

OID=20071147194　　無断複製・無断転載禁止　日経BP社